

# カイコに学ぶ

秋山 幸也

※相模原市立博物館学芸員



その8

カイコを知ろう

⑤ 交尾と産卵



## 1 においてオスをひきつける

メスは羽化してすぐ、腹部の先から誘引腺を出してにおいを出します。このにおいは、人間にはまったくわからないものですが、オスにとっては強烈なものようです。オスは少し離れた場所においても、このにおいを触覚で感じると、飛べないはねをバタバタとふるわせながらメスに近づいてきます。このようにオスをひきつけるにおいを、性フェロモンといい、多くの昆虫で知られています。

腹の先から誘引腺を出すメス



誘引腺から  
フェロモン  
を出す

うーん、  
本当ににおいは  
感じないね。

## 2 交尾と産卵

メスにたどりついたオスは、腹部の先をメスの誘引腺のあたりに押しつけます。こうして交尾が始まり、半日ほど続きます。交尾を終えたメスは、しばらくすると産卵を始めます。一つずつ、ゆっくりと地面にはりつけるように産んでいきます。1匹のメスが産む卵の数は、500個くらいです。卵ははじめレモン色をしていますが、2日後くらいには黒っぽい紫色になってきます。

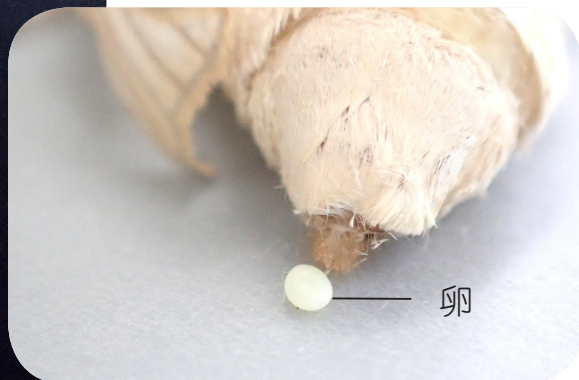
交尾するカイコ



メス

オス

産卵するカイコのメス



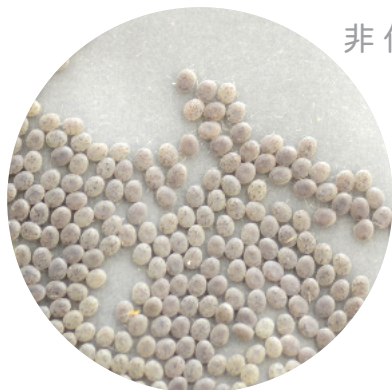
卵

### 3 翌年まで眠る卵

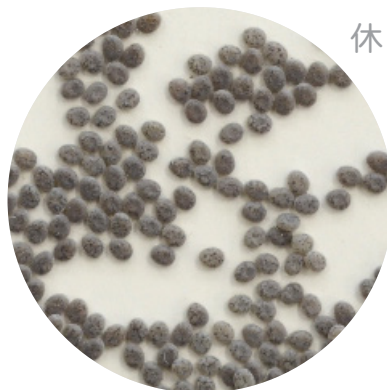
カイコは年に1回だけふ化する昆虫です。でも、気温が低めの時に成虫になったカイコの卵は、約2週間後にまたふ化することがあります。このような卵を「眠らない卵」という意味で、**非休眠卵**（ひきゅうみんらん）と言います。非休眠卵は、産卵から2日以上たっても黒っぽくならないのでわかります。

しかし、ほとんどの卵は、翌年の春まで1年近く眠った状態になる**休眠卵**（きゅうみんらん）です。でも、この休眠卵はくすりで簡単な処理することによって、2週間くらい後にふ化をはじめるようにコントロールできますし、冷蔵することによって休眠状態を長引かせることもできます。カイコの卵を生産し、養蚕農家や学習教材用に販売している業者さんは、こうした技術を使って注文どおりのタイミングで卵を届けてくれるのです。

黒っぽくならない  
非休眠卵



黒っぽくなった  
休眠卵



→その9

カイコを知ろう

⑥ 品種のはなし